



世界文化遺産登録後、初めて迎えた富士山の夏山シーズンは減りましたが、観光客が国内外から富士山周辺の構成資産や娯楽施設などを訪れ、旅館・ホテルの宿泊者数も増え、盛況を呈しました。経済的な波及効果は大きなものだったと思います。この盛況は続くことが期待されています。

「開発の抑止」へ課題山積

だが本当に手放しで喜んでいて良いのでしょうか。世界遺産登録の目的は「開発の抑止」であり、課せられる新たな制約に同意する「覚悟」の



渡辺豊博さん

経済優先せず総合対策を

証しだと思っています。山梨県側の富士スバルライン5合目の売店周辺にあふれている観光客や登山者の様子を見ていると、繁華街の雑踏と同じようだと感じます。海外の世界遺産の山々では絶対に見ることがない光景です。どこに世界基準に準拠した山の秩序と規範が存在しているのでしょうか。

対策が目的とはいえ、登山者の「善意」に頼るその場しのぎの対策だと思っています。海外では入山料の徴収は当然で、罰則規定もあり、登山者すべてから強制徴収しています。登山者数の制限・抑止対策のひとつにもなっています。

8月下旬に静岡側と山梨側の8合目まで登り、現場の実態把握・調査をしました。一番の驚きは、以前と比べて登山道が広がり、崩壊が進んでいることです。足場が悪く危険な登山道に昼夜を問わず多くの人が登山しており、世界で一番危険で無秩序な山だと強く感じました。海外の世界遺産の山では、手すりや登山道を保護するため、足場にボードを整備するなど安全対策を徹底しています。

現実的に行政が対応すべき多様な施策・対策のほとんどが、手つかずのまま積み残しになっていきます。今後どのような手順と内容で多様な課題を解決していくのでしょうか。今こそ、長期的視点に立った総合的・専門的な対策が必要とされています。

具体的に対策例を挙げてみます。すべての登山道を測量調査して危険な場所や崩壊している所を拾い出し、安全対策の設計積算をする▽バイオトイレの稼働状況を調べ、維持管理態勢や夜間停止中の対策、増設の必要性を検討する▽登山者の健康管理や治療を担う診療所の現状と課題を把握し対策をたてる▽救助要請の状況を精査し、緊急時の安全対策をたてる▽弾丸登山の実態を分析し、集中登山の分散化の対策をたてる▽海外からの登山者を精査して、案内看板の言語と表示位置を再検討する▽マイカー通行規制の効果判定をし、より効果的な規制をする▽適切な登山者数を山小屋の宿泊者数を基準に決め、総量・入山規制の対策をたてる▽レンジャーの育成を進め登山指導・安全確保の

今後、行政と民間を含め、利害関係者の思惑や経済効果を優先せず、美しい富士山をどのように守り、伝えていくのか、その具体的で実効性の高い、総合的な対策の立案が求められています。

(わたなべ・とよひろ 都留文科大教授)